

相模原市協働事業提案制度事業（新規採択事業分）検討結果

市民協働推進審議会 答申結果の表記について

協働事業実施の方向性

- A：協働事業として実施することがふさわしい提案であると考える。
- B：事業内容を修正（精査）することにより協働事業としての実施が可能なものと考える。
- C：協働事業として今回は見送ることが適当な提案であると考える。

< 答申における全事業及び協働事業提案制度の運用に係る審議会意見 >

公開プレゼンテーション及び中間ヒアリング等への職員の出席も含め、担当課にはより積極的な参画を期待する。また、事業実施中に団体と担当課の課題認識や方向性に齟齬が生じないように、緊密な連携をとってほしい。

事業の持続的な実施に当たり、担い手の育成や広報活動は非常に重要であり、対象者を明確にした上で、的確なアプローチを行い、より効果的な取組となるよう努力してほしい。

コロナ禍ではあるが、ここ数年、緑区を拠点に活動している団体からの提案が多い。それは緑区、特に中山間地域では人口減少や少子高齢化の影響を受けてのことだと考えられる。南区や中央区からの提案も促して行く必要があるのではなかろうか。

事業の名称		事業の概要	市民協働推進審議会 答申		答申を踏まえた市としての検討結果
団体・担当課の名称			結果	審議会意見(要点)	
NO.1 <u>市民提案型事業</u> 里山保全・再生と活用のモデル検討事業		森林面積が6割の相模原市には、街に接する里山林が多数あるが、その活用が不十分のため、手入れや再生が行き届かない里山林が多い。そのために、里山林の積極的な活用を通して、その保全と再生を図る。	協働事業実施の方向性 <u>採 択</u> A 協働事業として実施することがふさわしい提案であると考える	<ul style="list-style-type: none"> ・若い世代も多い他団体とのコラボレーション事業の実施により、提案団体の経験値やノウハウ等を生かしつつも、それぞれの団体の強みを生かした、より魅力的な取組が期待される。 ・事業実施にあたっては、ひとつの団体に負担が偏らないよう工夫してもらいたい。 ・事業の拠点となる森林は、公共交通機関でのアクセスが難しい課題があり、アクセスの整備がなされないと集客が見込めないと考えられるため、方策を検討してもらいたい。 	<u>採 択</u> 審議会意見に基づいて検討を行い、実施すべき
・特定非営利活動法人 自遊クラブ ・森林政策課					

事業の名称	事業の概要	市民協働推進審議会 答申		答申を踏まえた市としての検討結果
団体・担当課の名称		結果	審議会意見（要点）	
<p>NO. 2 市民提案型事業 「さがみん条例」の1つのシンボルとなる相模原市オリジナル教育プログラム＝「シビックプライド向上ゲーム」開発事業</p> <hr/> <p>・相模原市印刷広告協同組合 ・観光・シティプロモーション課</p>	<p>現在、相模原市には、シビックプライドを向上するための代表的な教育プログラムはなく、市の魅力を「パズルとクイズカード」で遊びながら学べ、シビックプライドを涵養する教育プログラム（＝ゲーム）を開発する。</p>	<p>協働事業実施の方向性 採 択 A 協働事業として実施することがふさわしい提案であると考え</p>	<ul style="list-style-type: none"> 市民のシビックプライド醸成を促すコンテンツとして有効であると考え、成果目標は本施策と直結するものにするよう、再検討してもらいたい。 担当課には、本事業を他の施策と一体的に取り組むことで、シビックプライドの醸成に取り組んでももらいたい。 クイズ製作にあたっては、題材を探しに地域をめぐるスタンプラリーやフィールドワーク等も有効であると考え。 こどもの作ったクイズと大人の作ったクイズでは、双方の面白さ、魅力の質が異なるため、サイト内において、その面白さの違いが伝わるような工夫をしてもらいたい。 	<p>採 択</p> <p>審議会意見に基づいて検討を行い、実施すべき</p>

事業の名称	事業の概要	市民協働推進審議会 答申		答申を踏まえた市としての検討結果
団体・担当課の名称		結果	審議会意見（要点）	
NO.3 市民提案型事業 野生鳥獣被害の実態や対策、生物の多様性を周知する事業	野生鳥獣による農作物の被害の状況やその対策を周知すると共に、野生動物の命の尊厳を守り、野生動物と人間との共生の在り方について市民と共に考える場を作り、生物多様性の保全と理解を促進する。	協働事業実施の方向性 採 択	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な社会という視点からも、意義のある事業であると考える。 ・鳥獣被害の状況や、野生動物との共生に関して理解を促すことは、ハードルは高いが、マップやパネル等で可視化する等、市民がわかりやすい形で実施してもらいたい。 ・より多くの市民に理解を促すためにも、賛同者を増やし、組織体制の強化に取り組んでももらいたい。 	採 択
<ul style="list-style-type: none"> ・野生動物との共生の会 ・緑区役所区政策課 		A 協働事業として実施することがふさわしい提案であると考える		審議会意見に基づいて検討を行い、実施すべき

事業の名称	事業の概要	市民協働推進審議会 答申		答申を踏まえた市としての検討結果
団体・担当課の名称		結果	審議会意見（要点）	
NO. 4 市民提案型事業 「城山自然の家」を観光ゲートとした城山エリアでの e-bike ツアーの造成	中山間地域への入口（ゲート）に位置する「城山自然の家」を観光ゲートとし、相模原市緑区の城山エリアにおける特徴的な観光である自然散策を e-bike ツアーと組み合わせることでアクティビティ要素を加えた体験型観光に昇華し、当該エリアが抱えている課題(二次交通、来訪者属性の偏り、認知度の低さ、観光資源の未成熟さなど)の解決を図る目玉コンテンツとして造成する。	協働事業実施の方向性 採 択 A 協働事業として実施することがふさわしい提案である と考える	<ul style="list-style-type: none"> 地域の資源を生かした有意義な取組だと考えることから、事業を実施する地域を活性化し、魅力をどのように打ち出していくかが重要である。 将来的に継続していくためにも、魅力あるコンテンツや価格設定をよく検討し、採算の取れる取組としてもらいたい。 事業の拠点となる地域は、公共交通機関でのアクセスが難しい課題があり、アクセスの整備がなされないと集客が見込めないと考えられるため、方策を検討してもらいたい。 e-bike ツアーに関しては、専門性も求められるため、団体内で勉強会の開催等も有効だと考える。 	採 択 審議会意見に基づいて検討を行い、実施すべき
<ul style="list-style-type: none"> 城山観光協会 観光・シティプロモーション課 城山まちづくりセンター 				